*2014年度前期タイトルレポート*

2014年度前期タイトルが決定致しましたので,

この場をお借りして公表させていただきます。

【2014年度前期全国統一タイトル】

「刑事論題」

*What policy should the Japanese Government*

*adopt concerning Criminal issues?*

日本政府は刑事問題に対しどのような政策をとるべきか？

【メイントピック】

少年犯罪（Juvenile crime）

裁判員制度（Citizen judge system）

死刑（Death penalty

【全国タイトル会議の概要】

各トピックについての考察を示す前に、TDF,JIDM,KDLによる全国タイトル会議の概要を以下にまとめる。

* 刑事問題となった理由

関東案として福祉論題、関西案として刑事論題があがり、選定基準を策定した上で両者を比較する形を取った。福祉論題は金銭の話がついてまわり、関西で盛んなスパイクプランやカウンタープランの議論が出しやすい反面、煩雑になることが予想されたこと、それに関連して難易度の高い論題になってしまい、刑事問題と比べて、PDDが盛んではない大学に大きな負担となる点が危惧されたのが、論題から外れた大きな理由となった。

一方の刑事論題は、今回選定されたものの、以前から使い回されている論題であり、既存のアイデアの踏襲が行われてしまい、アイデアを練る作業、『思考する』という作業が軽んじられることが危惧される点は忘れずにこの論題に望んでいただきたい。また、今回の論題は比較的PDDがやりやすく、盛んでない大学でも良いスキルアップの機会になるのであるが、一方で使い回された論題であるので盛んな大学の方が有利になる可能性が指摘されたことも併せて記しておく。

* どんなDiscussantになってほしいか

刑事論題の特徴として、現在主流な議論のフォーマットである、Problem-Solvency Formatに落としこみやすいという特徴がある。ディスカッションをする機会の多い前期は、“基本の型”とも言えるこのFormatを学ぶのに適した期間であろう。

将来的に自分たちが後輩にeducationを施すのに足るDiscussionの基礎を養成していただきたい。特に政策決定の基準となるComparisonを学ぶ絶好の機会であり、また３時間という時間的制約の中で確実に結論を得るために必要な議事進行能力も身につけられよう。

また先ほども記した通り、使い回されている論題であるからこそ、上を目指す人たちには、今までの議論を踏襲するにとどまらず、独創的なアイデアを練るために思考する作業を怠らないでほしい。また主に関東では、いわゆるNew ProcedureなるものがFormatとして提示される機会もあるだろう。その際にも確実に内容のある議論ができるような議事進行を行える実力を身につけてほしい。

【Model Opinion Sheets】

少年犯罪　<Juvenile Delinquency>

Cause: The Japanese Government set up the juvenile law.

Problem: Children are punished by the juvenile law.

Harm: Victim’s families suffer mentally.

Direction: The Japanese Government should help victim`s families.

Mandate: The Japanese Government makes new laws.

Advantage: Victim’s families will not suffer mentally.

少年法の存在により、未成年はたとえ罪を犯しても成人とは異なる対処を受ける。これは責任能力の欠陥など、青少年に不足しているさまざまな点を考慮した上でこれからの成長に期待し更正の余地を与えようという政府の方針である。しかし、近年の少年犯罪の低年齢化や犯罪数の増加は顕著であり、また犯罪そのものの凶暴性は悪化しているのではないかという分析から、このままでよいのかという声も上がっている。そのため2007年には少年法が改訂され、より厳しい罰が未成年の犯罪に対して与えられるようになった。

こういった厳罰化の傾向にあるとはいえ、少年法というものがある以上未成年と成年の区別は存在し続ける。たとえ未成年が犯した犯罪であっても被害者家族の心理状況が辛いものであるということは変わらない。しかし、責任能力や学習能力が欠陥または未発達の人間に重い罪を与えたところでそこに効果は生まれないのではないか。また、責任能力がなくても罰するというのは刑法の原則から外れるのではないか。このような考え方などから、未成年への処罰として成人よりも軽いものを与えることが正しいのかどうかということがコンパリソンにおける論点の一つになると思われる。

また、少年犯罪の場合は未成年犯罪者の更正の方法に関する議論において、昨年度の後期タイトルである教育問題で培った知識や理論を活かすことができる。教育論題と少年犯罪に関する議論を通じて、自分なりの「こども論」を形成していってほしい。また、このトピックでは、少年犯罪についての例外規定を設けるなど、ベストプラン作成に向けてのスパイクプランやカウンタープランにおける活発な議論が期待できる。

裁判員制度　<Citizen judge system>

Cause: J/G started citizen judge system.

Problem: Criminals are judged by citizen judge system.

Harm: Criminals S/M.

Direction: J/G should abolish citizen judge system.

Mandate: J/G makes a new law.

AD: Criminals ×S/M.

裁判員制度とは、国が選出した裁判員が地方裁判所で行われる刑事裁判に参加し、裁判官と共に審理に参加する司法・裁判制度である。

裁判員制度のメリットとしては、国民の司法参加により裁判への親近感を高たり、裁判に世論を反映することがあげられる。

デメリットとしては、法の知識が乏しい裁判員の価値観や感情により判決が変わることや裁判員が重大な事件に関わることによる精神的負担などがあげられる。

施行されてから約４年が経った今、様々な問題点が噴出している。この制度を裁判員目線、囚人目線などから再度熟考することによって、裁判員制度が本当に必要な制度なのか考えてもらいたい。

この制度について議論することで、刑事裁判の目的とは何か、司法の民主化をすべきか否かなどを議論することができよう。

死刑　<Death penalty>

Cause: J/G admits D/P.

Problem: D/P is c/out to c/c.

Harm: C/C S/M (Die).

Direction: J/G should abolish D/P.

Mandate: J/G makes a new law.

AD: C/C ×S/M（×Die）

長年議論され続けている死刑問題であるが、まだ死刑問題についての議論は様々な余地があり、その議論に終止符が打たれることはない。

「死」に対する価値観、死刑の犯罪抑止力、罪人の命か遺族の思いのどちらを重視するか等の論点により、死刑廃止または死刑在置と意見が二極化し議論が白熱することが予想されるトピックである。

ASQの構造がシンプルであるためアーギュメントやコンパリゾンに時間を割きやすく、アーギュメントやコンパリゾンの知識や技術を養えると考える。

その中で、新２回生などにはASQからコンパリゾンまでを経験することにより、problem-solvency format全体の理解を深めてもらいたい。

また裁判員制度により裁判員が死刑判決に関わることがあり、裁判員制度と死刑制度の関わりなども議論なされるだろう。

【Regulations】

1,日本政府による政策決定の範疇内であるものに限定する。

2,日本政府が金を支出することのみで解決するマンデートは禁止とする。ただし、マンデートを執行する際の経費に関しては例外である。

3, 他のタイトル（労働問題、教育問題、医療問題、環境問題、軍事問題等）のメイントピックと重複するトピックは禁止とする。

4,宗教に関わるものは禁止とする。

5, Evidenceのソースを明確にすること。

　　例）新聞名、URL、本の著名、著者、等々。

【最後に】

全国タイトル会議では、タイトル選定以外にも貴重な話ができたので、その内容を共有するべく以下にまとめたので、是非一読していただきたい。

関西では、論題発表からKESSA CAMPまでの期間が短く、またその期間にDiscussionを行う機会が大変少なく、大学間での交流の機会が少ないことも明らかになった。また関東やそれ以外の地域にも当てはまることだが、PDDが盛んな大学とそうでない大学の環境の差が浮き彫りとなった。PDDを行う大学が減って行く中で、いかにその衰退を食い止めるか、発展させていくかが問題点として明らかになったことを記しておく。学びたいものが学べるような、education環境、preparation環境の充実を目指していただきたい。

※タイトルに関して何か質問等ございましたら以下の連絡先へお願い致します。

＊Kansai Discussion League 連盟長　安保　敬司

gogogoabobo@yahoo.co.jp

＊Tokyo Discussion Federation 連盟長　宇津木　孝志

takautsugi@gmail.com

＊Japan Intercollegiate Discussion Meeting 委員長　宮澤　知花

miyachuu105.08@gmail.com